

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

事業名	コード	名称	会計	コード	名称	
664	産地づくり対策事業	会計	01	一般会計		
		款	06	農林業費		
基本施策	42	持続的で個性的な農林業を実践する	項	01	農業費	
			目	03	農業振興費	
担当部課名	伊賀支所産業建設課		細目	101	農業振興経費	
作成者氏名	高島 幸生	連絡先	45-9119	細々目	05	産地づくり対策事業

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)			
	・集落単位で麦・大豆を団地化して作付けをした集落営農組合等	・集団転作を計画的に行うことで、米の生産調整の達成。また、耕作放棄地の発生を防止することにより良好な水田環境が保たれる。			
本年度事業内容	・産地づくり補助金の助成 11,418千円(7,000円/10a)				
開始年度	平成 年度	終了年度	平成 18 年度	根拠法令・要綱等	伊賀市補助金等交付規則

投入資源

	H17	H18(予算)	H19(予算)
①投入人員			
正規職員 (人)	0.3	0.3	0.1
人件費合計(A)	2,160	2,160	720
②支出内訳(千円)			
事業費(B)	11,418	12,236	0
補助金	11,418	12,236	未定
その他			
合計(A+B)	13,578	14,396	720
③財源内訳(千円)			
特定財源			
国県支出金			
地方債			
受益者負担			
その他特財			
一般財源	13,578	14,396	720
上記①～③に関する特記事項			

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
麦作付け面積	ha	134.4	140	140			
大豆作付け面積	ha	28.7	34	40			

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
集団転作実施面積	集団転作が継続的に実施されることが、良好な水田環境の保全と結びつくため、集団転作実施面積を指標としたい。	ha	163 目標 ( )	174	180
			目標 ( )		

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

平成16年度より実施しており、麦、大豆の集団転作実施集落に、国の助成金の上乗せとして実施してきた。集落営農による集団転作の実施意欲の低下を防ぐとともに、米の生産調整の推進と耕作放棄地の発生防止により水田の持つ多面的機能の維持のための制度である。平成15年度までは集団転作4,000円/反とばら転作3,000円/反であったが、集団転作を推進するため、平成16年度より現在の制度となり、ばら転作への上乗せ助成は廃止されている。

評価	必要性	4	本制度は、平成16年度より実施しており、集団転作実施面積は H16年度170ha、H17年度163ha、H18年度174ha(計画)となっている。米の生産調整の推進と耕作放棄地の発生防止により水田の持つ多面的機能の維持のため、本制度の継続が大切である。また、水稲との価格の格差是正のうえからも本制度は必要である。	総合評価
	有効性	4		
	達成度	4		
	効率性	4		
				A